

# 高原町議会報告会



高原町

# 議会だより

第56号

平成28年6月定例会

議会報告会  
合併号

## おもな内容

- 6月定例会(P2)
- 一般質問、ここが聞きたい(P3~P5)
- 議会報告会(P10~P15)
- 高原スポーツ少年団紹介(P16)

■発行/高原町議会

■編集/議会だより編集委員会

☎889-4492 宮崎県西諸県郡高原町大字西麓899番地 ☎(0984)42-5138

■発行日/平成28年 8月15日



the most beautiful  
villages  
in japan

# 6月 定例議会

## あらまし

6月議会が6月8日に召集、6月14日までの7日間の日程で開催されました。今定例会は、報告5件、承認5件、議案6件の合計16件が提出されました。うち、「一般会計補正予算（第2号）」は一般会計予算決算委員会、「国民健康保険税条例の一部を改正する条例」は文教厚生常任委員会での審議を経て、本会議で全体審議の結果、すべて原案どおり可決されました。

また、一般質問は、4人が登壇し、福祉・教育・農政・観光・まちづくり等多岐にわたって質問がなされ、町当局の見解を質しました。

### 承認第6号

#### 平成28年度高原町一般会計補正予算（第1号） 補正の主な内容

予算総額に歳入歳出それぞれ777万1千円を追加。歳入歳出予算の総額を58億977万1千円に補正。

- ・子ども・子育て支援交付金事業・・・・・・・・・・・・・・・・ 777万1千円

### 議案第39号

#### 平成28年度高原町一般会計補正予算（第2号） 補正の主な内容

予算総額に歳入歳出それぞれ8,917万4千円を追加。歳入歳出予算の総額を58億9,894万5千円に補正。

- ・臨時福祉給付金給付事業・・・・・・・・・・・・・・・・ 2,149万円
- ・放課後児童クラブ環境改善整備推進事業補助金・・・・ 2,000万円
- ・保育所等における業務効率化推進事業補助金・・・・ 200万円
- ・保育料等負担軽減事業補助金・・・・・・・・・・・・ 442万3千円
- ・定住促進住宅整備事業（宅地造成費用）・・・・・・ 3,525万円
- ・災害対策費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 771万4千円
- 内訳
  - 消耗品費（備蓄品購入費）・・・・・・・・・・・・ 254万2千円
  - 委託料（地震対策ハザードマップ作成費用）・・・・ 350万円
  - 備品購入費（書類保管用金庫及び防災倉庫）・・ 167万2千円
- ・学校管理費（狭野小学校トイレ改修費）・・・・・・ 997万7千円
- ・公民館費（湯之元・小塚地区備品購入費）・・・・・・ 340万円
- ・社会教育全国大会等出場補助金・・・・・・・・・・・・ 3万円

# 一般質問

ここが聞きたい!!

6月定例会は、4名の議員が登壇し、防災・農政・まちづくり等町政の全般にわたって質問・提言等がありました。

## 形だけの行財政改革はだらだら！

陣 圭介議員



### ○防災行政について

**問** 県の防災計画等に対応する本町の対策は？

**答** 現在検討・準備中。地震ハザードマップの作成、公的備蓄品の充実が補正予算に計上した。

**問** 原子力災害対策について、町独自の防災計画が必要と考えるが？

**答** 独自に情報収集する。これは、住民の生命を守るという意味であり、町独自

で動くケースはあると理解している。

### ○公共施設整備について

**問** 役場庁舎の耐震性は？ほほえみ館の活用の声もあるが。

**答** 早急に取り組むべき課題と再認識している。公共施設等整備検討委員会において、耐震改修等の手法や概算事業費について検討中。

### ○行財政改革について

**問** 行財政改革についての考えは？

**答** 歳入確保が厳しい中、扶助費の増加、国保及び病院への繰出金の増加もあり、必要性・緊急性の優先度を測り、予算を重点化し、経費削減と新たな自主財源確保に努める。

**問** 平成27年度の人件費の目標が8億7,300万円としながら、当初予算においては、11億400万円が計上されている。平成21年度の9億8,000万円に

対して1億2,000万円、率にして12%増となっている。財政再建団体への転落を懸念して行財政改革を進めてきたはずだが、計画は形だけに過ぎないのか？

**答** 平成26年度決算は9億7,100万円であり、結果的に平成21年度より微減である。

**問** 行財政改革を目的として3役の給与をカット、期末手当増額の議案の提案は本末転倒であると考えるが。

**答** 報酬、人件費について

は、決められた形の中で支給されるべきだと考える。

**問** 保育所運営を社会福祉協議会に代行させることにより、潜在保育士が多く出てくるという背景を町自らが作ったように受け取れる。現場では保育士さんが足りないという現状があるが。

**答** 今後とも保育士確保のために、生活給として成り立つよう国の水準を見ながら保育所運営にあたる。また、保育士の確保に努める。

**問** 国の水準はもとも低い。保育士処遇の改善については首長次第であると考えるが。

**答** 給与の見直しについても検討しないと確保できないと認識している。今後の検討課題である。

### ○福祉行政について

**問** 居宅介護支援事業の現状は？

**答** ケアマネージャーを確保できず、現在休止中。社協が持っていたケアプランは、町内外の事業所に引き継いだ。

**問** 教育・保育給付費事業幼稚園における対象年齢の制限は？

**答** 適用とならなかったお子さんについても保育料軽減の対象とすることとし、補正予算に計上した。

**○まちづくり・観光事業について**

**問** 高原町観光協会に対する首長の考えは？

**答** 公共的な団体の一つとして位置付け、観光拠点の管理運営を業務委託している。民間企業の側面もあることから、協会独自の活動等については関与できない。  
**問** 観光協会について、行財政改革推進計画に明記さ





# 定住促進住宅について

中村 昇議員



問 来た「自立の促進」に対する考えは？

答 補助金については、精算もある。行財政行革のためには考えていくべき。

問 農家民泊の推進を！

答 西諸3市町の首長とも支援が必要と認識している。手法については、今後調整する。

い。

問 PFIでは初期投資は軽減できるが、民間に支払う住宅の借上げ料が、直接供給型における建設費借金返済額と比べて高額になるため、地代収入が発生するにもかかわらず財政負担額は大きく増加するという調査もあるが。

答 定住対策推進会議で決めていくことになるが、ご意見を取り入れながら検討する。

問 PFI導入調査をしないと予定費用が把握できないが。

答 どちらが町の財政に有利か、判断する上でも行わ

なければならない。

問 地元企業が参加しづらいという問題もあるが。

答 一戸建であり参入しやすいよう検討する。

○居宅介護支援事業について

問 社会福祉協議会の事業所に今年4月よりケアマネージャーが配置されていないが。

答 社協の居宅介護事業は休止した。

問 社会福祉協議会は地域福祉の推進を図ることを目的とする団体。町民が介護など困った時に相談する窓口である。これを休止するとは。

答 公募の仕方において処遇の認識が甘かった。町民の皆様にお詫びする。今後、ケアマネージャーの確保、事業の再開のために早急に理事会等を開き検討する。

○総合事業について

問 要支援者は保険給付か

らはずし、平成28年度中に総合事業へ移行しなければならぬ。対応は。

答 デイサービスなどに行けなくならないよう今まで通り進めたい。

○就学支援について

問 入学準備金は3月に支給を。

答 今後、研究したい。

# 賃貸住宅建設費の助成について

北迫 泉議員



○就農支援について

問 都市では独自の支援制度がある。年齢は55歳以下、経営移譲の条件はない。親元就農の場合、月5万円、年間60万円支給される。本町でも支援を。

答 事例を参考に検討したい。

進課で、高原町ホームページ内での「移住の窓口」の開設、移住パンフレットの作成、空き家等情報バンクの充実などに取り組んだ。2名は、高原町観光協会、観光協会のホームページの開設、各種イベントのサポート、各種情報誌への本町のPR等に取り組んだ。2名が町内に定住。

問 結婚祝い金の助成は。

答 移住定住対策事業の中で対応できる方策がないか、

問 地域おこし協力隊員3名の活動内容の成果と現状は。

答 1名は、まちづくり推

問 従来方式よりコスト削減がはかれるなどのメリットがある。また、公営住宅法によらないことから子育て世代の入居者に、町の裁量が活かせる点が大き



先進地の事例を調査・研究する。

**問** 教職員や役場職員が、高原町に住みたくても、民間アパートが少なく、住めないのが現状である。賃貸住宅を建設する人に対して、建設費用の一部を助成できないか。

**答** 先進地の事例を調査・研究する。

**問** 平成28年4月1日から女性活躍推進法が施行された。宮崎県は、女性管理職の登用が全国でワースト1位である。本町においても男女共同参画等の計画を策定しているが、町長は女性管理職登用をどのように考えているか。

**答** 女性職員の職域拡大に向け、男女を問わず、能力や適性に応じた人事異動を積極的に推進して、多様な経験による人材育成を進める中で、女性職員の登用を推進してまいらる。

## 農地中間管理機構の進捗状況について

入佐 廣登議員



**問** 農地中間管理機構と担い手に対しての取り組み状況と、今後の対策は。

**答** 平成26年10月に、担い手に事業説明会を開催。結果176人、53社の希望があった。今後、重点施策地区の積み上げと新たな実施地区の掘り起こしや、人、農地プランを活用した徹底した話し合いの場を強化することが重要と考える。

**○畑かん事業について**

**問** 高齢化が進む中、今後

早い時期に田、畑の荒廃が進むと思われる。広原地区の今後の取り組みは。

**答** 平成24年度より事業計画業務委託事業を実施、平成28年度で完了予定である。それに伴い広原地区土地改良推進委員会を開催し、受益者を対象とした事業説明会を計画し、地域の意向を伺うこととしている。

**○土木行政：上平高原駅線について**

**問** 平成29年度完了予定となっている上平高原駅線の制限速度が、高原から高速道路橋までは50キロとなっており高速橋から広原に向けては40キロとなっている。道路整備完了後の制限速度は。

**答** 設計速度を時速40キロ

で採用しており、完了後に警察署と協議により決定される。今後も通学路指定区間であり安全を確保する上で制限速度40キロでの採用をお願いしたいと考えている。

**問** 完了後、道幅も広くなり見通しも良くなる。50キロでも良いのでは。

**答** あくまで前設計段階での40キロであり、完了後検討してお願ひして行く。

**○農道整備：鷹巣原地区の農道整備について**

**問** 大雨の度に道路の砂利が流され通行に支障が出る。舗装廃材を利用する事で解消されると思うが。

**答** 地形環境を踏まえ、現場状況を確認しながら舗装廃材の支給を地元と協議し

検討する。

**問** 上広原、十文字の横断歩道が無くなり、地域住民から不便になったと苦情が出ている。元に戻すことは出来ないか。

**答** 今房線から宮下線への横断歩道はカーブとなっており見通しが悪く危険だと判断され撤去された。今後引き続き信号機と横断歩道の設置について宮崎県公安委員会へ要望をして行きたい。



# 総括質疑

議案第37号

## ◎国民健康保険税条例の一部を改正する条例

### ○所得割の税率について

**陣** 所得割について、基礎控除後の総所得金額等に乘じる係数が、100分の7・41から100分の6・99に下っているが、国民健康保険運営協議会の資料によれば、予算全体に占める所得割の割合を45%から47%に上げることが記載されている。一方、応能割の残り、後期高齢者分と介護分については増えているが、理由は？応益割の全体に占める割合は減じているにも関わらず、応益割の額は増えているから、総体的に保

険税の納付金額は増えると考えますが、所得割に係る係数を減じている影響が応益割に出ているのではないか。見解は？

**A** 所得割の対象額が、前年より1億8,000万円増えている。そのため、所得割を減らしてもそれ以上の税額が見込める。1億8,000万円の増は、主に子牛価格の上昇によるもので、前年度と比較すると、約11%の増にあたる。

**陣** 所得割の税率を減らしても全体的には会計として成立するという話であると

考えるが、資料の記載に対して所得割の部分をなぜ減らす必要があるのか？応益割にあたる部分の割合を減らすという資料にも関わらず、金額が増加しているのはなぜか。所得が増加したのであれば、それなりの保険税を納付する必要性が生じると考えるが、ある一定のところ配慮したような改正条例案になっているように思うが。

**A** 国保税は、医療分、後期支援分、介護分の3つの合計で算定するようになっている。世帯人数、所得、資産等によって各条件が異なるが、これらを同じ条件でシミュレーションすると、前年度と所得が変わらない世帯については、トータルでは若干上がる程度。本町では軽減世帯が非常に多いが、7割軽減世帯については増

減がほとんどない形での変更になっている。所得が前年度比大きく増えたところについては、増税となる。その分は所得にに応じて上がる。例えば100万円所得が増えた場合には、税額が12万円ほど上がる。

**陣** 答弁によると、激変緩和措置であると考え。しかし、そもそも国保税は所得に応じて納付するものであると考える。なぜ所得割の部分だけ減らさなければならぬのか？一律に上昇するのであれば理解する。詳細に説明を。

**A** 所得割の税率をそのまま据え置けば、全世帯が増税となる。税の需要額として、基礎賦課分が1億8,571万円、後期支援分が8,033万8千円、介護納付分が2,655万5千円を収入として見ないと歳

入、歳出が合わないということに係数、軽減措置の額等を計算した。



### ○低所得者対策等について

**中村** 国の低所得者対策として1,700億円の本町における見積額は？また、子育て支援ということで、中学生まで入院に加え通院も助成することで予算化されているが、これに対して国から課されるペナルティーの額は？

A 委員会にて示す。(委員会審議において、低所得者対策については5,950万円、ペナルティー額については35万円との答弁あり。)

**中村** 議長への要望を述べたい。宮崎県の町村議長会における国への要望、決議等において、自治体へのペナルティーをやめるように要望して欲しい。地方が医療費助成等を進める中、子育て支援に逆行するものであると考える。厚労省の検討委員会においても、大多数がこのような動きをやめようという動きが出ている。

**宮司議長** 議長として、要望を承る。

**○基金について**

**益本** 基金残高がゼロである。本年度予算も繰越金を充当してやっと予算が組み

た状況である。次年度は病院事業等のことを考えると、国保の状況が好転するとは考え難い状況である。今後国保事業をどのように維持していくのか、今後の見通しについて聞きたい。

A 平成10年前後には、3億を越す基金積み立てがあった。疾病発生の場合に、応急的に2か月分約7,000万円程度の持ち出しがあるという中で、2か月分程度は基金積み立てをしなければならぬ状況にあった。しかし、これまで国保税を引き上げることには非常に困難な状況があったため、基金を取り崩して保険税を維持してきた状況がある。今回も約2,000万円程度積み立てられるのではないかと考えていたが、保険税を下げることに苦心し、積み立てを行わなかった。

今後、国保会計については厳しい状況が予測される。いろんな形で特定疾患での重篤患者を出さないような健康診査、検診を受けて頂きながら、医療費の抑制に努めていきたい。

**益本** 医療や検診に関するアイデアも十分に組めない状況であると考ええる。本年度は、繰り越しが約1億2,000万円あったが、これを若干基金に積み立てたらどうかと考える。しかし、町からの補助がある間は基金への積み立てができないとのことであるが、このようなことにこだわらず基金に積みながら、余裕、アイデア性のある医療、国保運営が望ましいと考えるが。

A 特殊疾病、流行疾病に対処すべく基金積み立てが必要なのは承知している。ただ、基金積み立てをして

保険税を増額することについては、町民の方々にも違和感があるということ。現在は基金積み立てに持つていけない。理解いただきたい。



### 議案第39号

### ◎平成28年度

### 高原町一般会計補正予算(第2号)

**陣** 放課後児童クラブの環境改善整備推進事業補助金200万円について、内容及び対象は?

A 運営指針において、子どもの育成支援の目標や計画、日々の子どもの状況や育成支援の内容記録などを

作成するように求められている。このような業務に対応するため、パソコン及びソフトウェアの購入に充てる。対象となるのは4園、各50万円を上限とする。

**陣** 保育所等における業務効率化推進事業補助金20

0万円について、内容は？  
A 保育士さんは、通常行う保育業務の他に園児台帳による児童の身体成長の記録、指導計画や保育日誌の

作成等を行う。これらの業務が保育士さんの負担になっていることから、保育業務支援システムを導入して



負担軽減を図る。対象は、

私立保育園2園で、それぞれ100万円を上限とする。

陣 保育料等負担軽減事業補助金442万3千円について、対象となる人数は？

A 大きく3つの項目からなる。

まず、当初予算では本事業の対象外とされていた認可外の保育園について、事業の対象とする。対象人数は13名。

また、保育園では給食費が保育料に含まれる一方、幼稚園については、給食費が保育料と別であることから、幼稚園の給食費分を補正する。対象人数は26名。

更に、幼稚園の3歳未満児についても対象とした。対象人数は3名。

陣 商工費の観光費として寄付金40万円が計上されているが、詳細な内容は？

A 熊本地震で被災された日本で最も美しい村連合加盟の南小国町及び高森町に義援金を送金するものである。

陣 災害対策費の備品（保管用倉庫）購入費として167万2千円が計上されているが、保管用倉庫の場所はどこか？

A 大規模地震等の場合に、電力の供給停止により電算システムが稼働しないケースが考えられる。

また、庁舎が倒壊した場合には、電算システムそのものが使用できなくなる。このような場合に備えて、避難者や災害弱者の確認のための住民票データ、要支援者リスト等を紙ベースで出力し、こ

れを保管するため、ほほえみ館に金庫を配備する。また、非常用食料品の備蓄のために、防災倉庫を2基用意する。1基は、ほほえみ館に設置する。賞味期限等を考慮し、数年かけて整備していく必要性があり、分散して置くという考え方からも、将来的には各小学校区に最低1箇所ずつ設置したい。



## 平成28年 第2回定例会議決結果

議案番号	件 名	議決結果	①陣圭介	②反田吉巳	③北迫泉	④中村昇	⑤温谷文雄	⑥益本一博	⑦松元茂春	⑧清水公雄	⑨入佐廣登	⑩宮司勲
報告第2号	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について	報告	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
報告第3号	平成28年度高原町土地開発公社予算について	報告	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
報告第4号	平成27年度高原町土地開発公社事業報告及び決算報告について	報告	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
報告第5号	平成27年度高原町一般会計予算繰越明許費繰越計算書について	報告	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
報告第6号	専決処分について（専決第7号） 草刈機の飛び石事故による和解及び損害賠償の額を定めたことについて	報告	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
承認第2号	専決処分について（専決第2号） 高原町税条例等の一部を改正する条例	承認	○	○	○	○	○	●	○	○	○	-
承認第3号	専決処分について（専決第3号） 高原町企業立地促進のための固定資産税の課税の特例に関する条例の一部を改正する条例	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
承認第4号	専決処分について（専決第4号） 国民健康保険税条例の一部を改正する条例	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
承認第5号	専決処分について（専決第5号） 平成27年度高原町一般会計補正予算（第10号）	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
承認第6号	専決処分について（専決第6号） 平成28年度高原町一般会計補正予算（第1号）	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
議案第37号	国民健康保険税条例の一部を改正する条例	可決	●	○	○	●	○	●	○	○	欠	-
議案第38号	高原町営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
議案第39号	平成28年度高原町一般会計補正予算（第2号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	-
議案第40号	平成28年度高原町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
議案第41号	物品購入契約について	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-
議案第42号	平成28年度高原町水道事業会計補正予算（第1号）	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-

○：賛成、●：反対、除：除斥、欠：欠席

多くのご意見ありがとうございました。

平成28年度 第1回

# 議会報告会

5月23日~29日 11会場で開催しました。



高原町議会では、高原町議会基本条例に基づき、去る5月23日(月)~5月29日(日)までのうちの6日間にわたって町内の11の会場で平成28年度第1回議会報告会を開催しました。

春の天候不順の中、農作業に大変忙しい時期の開催になりましたが、参加者が216人(昨年に比べて21人減)ありました。

各会場では、町政の様々な部門について、質問・提言さらには要望が多く出され、中でも、国民健康保険高原病院(町立病院)の医療サービスや経営状況について質問が集中しました。また、「道の駅」に関して計画断念に至る経過等にも多くの質問がありました。

要望や提言については、今後、議会の中で生かしていくことにします。また、要望事項については、すでに議長から町長に要望書が提出されました。

## 議会報告会日程

期 日	場 所	対象地区	参加者(人)	班
5月23日(月)	並木児童館	並木・常盤台	54人	1班
	蒲牟田活性化センター	蒲牟田	10人	2班
5月24日(火)	ほほえみ館中研修室	上麓	40人	1班
	花堂むらおこしセンター	花堂・小塚	12人	2班
5月25日(水)	湯之元集落センター	中平・湯之元・祓川	14人	1班
	下広原構造改善センター	下広原	7人	2班
5月26日(木)	出口農業構造改善センター	出口・鹿児島	17人	1班
	後川内小学校体育館	上・下後川内・川平	25人	2班
5月27日(金)	広原小学校体育館	上広原・西広原	11人	1班
	北狭野神武ふるさと館	北狭野・南狭野	9人	2班
5月29日(日)	ほほえみ館中研修室	下麓及びこれまで参加できなかった方	17人	全員
合 計			216人	

### 【担当議員】

1 班	宮司 勲・温谷 文雄・清水 公雄・北迫 泉・陣 圭介
2 班	入佐 廣登・松元 茂春・益本 一博・中村 昇・反田 吉己

## 議会報告会の質疑

### ◎高原病院の診療体制について

**問** 高原病院には、麻酔医がおらず、手術ができない状況にあり、また、入院も少ない。病院経営を改善する上で、高齢者、子どものことを考え、多くの通院患者を呼ぶために小児科、循環器内科があるかと思ふ。高齢者のことを考えると、病院は残すべきだと考へる。信頼できる良い医師を呼び、患者さんにより多く来てもらうように進めてほしい。

**答** これまで、医師は鹿児島医大からの派遣のみだったが、鹿児島大学の医局でさえ、医師確保が難しくなっている。今後は、毎週火曜日に循環器内科の診察が始まる。また、宮崎大学から呼吸器内科医師に来ていただく。さらに、総合医療が可能な医師も来ていた

く。町民の健康管理についても外科・内科併せての総合医療診断を期待している。

**問** 人間ドックを院長が見ないととなると、ドックも減ることにならないか。

**答** ドックの胃カメラ検診だけを他の医師が行い、診断・判定は院長がおこなっている。

**問** 患者の多い病院は、職員、看護師の対応、声かけ等の気配りがある。職員の教育への取り組み方の見直しを。

**問** 健診の休日受診はできないのか。

**答** 病院は毎週、病院検討会議を開き経営等について検討している。高原病院は夜間も対応できる。

**問** 以前、2時間ほど待った後、診察で顔も見ずに専門外だから整形外科に行った方がいいと言われたことがある。それ以来町立病院には行っていない。

**問** 病院の体制について、区長会としても、聞き取り

や勉強会を行った。区長会も回覧文書等での手助けをしていきたい。早く体制を整え、周知をしてほしい。

**答** 苦しい状況ではあるが、今後、高齢者のことを考えると、病院は残すべきと考えており、議会でも協議していく。

### ◎病院の経営について

**問** 病院の経営が悪化した原因と、この先の見通しについてどう考えているのか。

**答** 平成17年には剰余金は1億5,000万円あった。平成18年には病院の建て替えがあり、仮設診療棟の建設のため、1億9,000万円の損失がでた。診療報酬の過去最大引き下げ3・16%のため剰余金がマイナス4千万円になった。平成21年度には、公立病院不採算地区の交付金があり、7年ぶりの黒字になったが、累積は2億7,000万円の赤字がでた。平成23年からは、それまでの医師4人の体制が3人体制になり、待ち時間が長いなどの問題などで患者が減っていった。近年は、国の補助金と医業収益で、まかなってきた。26年度以降の収益の悪化は患者の減少が大きな理由であり、一般会計から繰入を行っている。病院としては医師を確保することによる経営改善策を掲げている。委員会審議の中では、平成28年度まで繰り入れがあれば、25年度レベルまで患者を回復できる見通しを示している。

**問** 病院の人員費の占める割合が大きくなっている。貸借対照表や損益計算書については、専門の会計士が入ったほうがいいと思う。作業効率等について見直しが必要ではないか。サービスの低下なく人員費を減らす方向で検討してほしい。小林市民病院は、通院患者は少ないが、入院（がん治療が主）患者の増により、

経営が黒字化している。高原も黒字化できるように考えてほしい。

**問** 町立病院は人口が減れば患者は減るし、大変ではないか。都城の民間病院にでも頼んでどうか。今後は、医者も来ない。

**問** 急激に患者が減った理由は医者の数の問題なのか。職員の対応の問題なのか。

**問** 高原病院について公立病院との比較資料をもらったが、民間病院との比較した資料等はあるのか。またなければ調査等をしてもらいたい。

**問** 病院事業が安定しないと、活性化事業に手を付けられない。一方必要な事業（公共施設の耐震化など）もあると思う。議会としてどう考えるのか。

**答** 患者が減少したのは、医師が少なくなったことが一番の原因とみている。病院については所管事務調査を行ったところである。医師が1年ごとに変わるこ

や、診療科目が、内科と外科だけ。手術ができないことや、紹介状が増えたことでも患者が減った理由として挙がっている。風評により、待ち時間が長いなどの苦情も広がっているおり、患者離れも著しい。高原町を住みよい環境にするためには、病院の維持は大切である。公立病院の経営は、全国的に見て、2年毎にある診療報酬引き下げの影響などもあり、7割が赤字である。民間はトントンで経営していると聞いている。

**答** 病院では、要綱を作り、毎月2回経営者会議を行い、毎週朝会を行い職場の改善に努力している。訪問看護の件数も施設に入る方が増え、患者が少なくなつたということだったが、その一方で、福祉・老人施設と契約し、施設入所者の診療も行ってはいる。新しく高崎町の施設が増える等、一生懸命取り組んでいる。

## ◎ジェネリック医薬品の活用について

**問** ジェネリック医薬品推奨の通知がきた。ジェネリック医薬品について、町民すべてが、使った場合の経済的効果は、通常の薬との単価違いは、処方箋の段階でジェネリック医薬品にできないか。薬局によつては、ジェネリック使用を推奨している。

**答** 先生が処方箋を書く段階でカードを提示すればできると思う。ジェネリック医薬品の成分、効能は先発薬品と同じである。町でも保険税の抑制のため、ジェネリック医薬品の推奨を行っている。

## ◎お薬手帳について

**問** 薬を貰いに行つたら、おくすり手帳があると薬代が安くなると聞いた。

**答** 以前は、おくすり手帳を持っている人のほうが薬

代は高かった。現在は、改正されて、おくすり手帳を持っていると安くなるようになった。

## ◎事務局体制について

**問** 全国的な問題もあると思うが、病院の事務局体制がおおざかりになっているのではないか。人事異動等が滞っている実態等もあるのではないか。



## ◎道の駅について

**問** 道の駅の構想については、唐突に出てきたように感じるが、いつの時点で議会に提案されたのか。町当局から基本計画の説明を受けた上で審議すべきだが、審議の時間は十分にあつたのか。

**答** 具体的な道の駅建設の構想策定の委託が提出されたのが、平成27年6月定例会。それ以前には、議員が一般質問の中で道の駅関係の質問をしている。

**問** 町内で生産された農産物は販売できずに、畑にたくさん残っている状況がある。また、町内には食事できるところが少ない。農産物の地場生産、地場販売ができるかと非常にありがたい。最初から大規模な道の駅ではなく、身の丈にあった、小さな販売所を作り、規模拡大をしていくことがいい

のではないかとと思う。

**答** 財政上の問題から、今の建設予定地では建設しないということであり、道の駅建設自体は中止してはいない。町民の意見としては、賛成、反対それぞれある。町財政の問題として、様々なことを検討していかねければならない。

今、杜の穂倉があり、生産物等の販売を行っているが、2〜3割が町内、他は町外ということであった。道の駅を作つたとしても、こういった課題が出てくると思つている。

今後、財政的な余裕がでてくれば、検討することになると思う。議会においても、今後検討していかねければならない。

**問** 土地を買う場合、鑑定評価額で買うのはおかしい。しかも、土地は、更地で買うのが、当たり前である。将来、経営が成り立つ等のシミュレーションをした上で実施というのであれば、

道の駅、体育館は造ってもいいと思う。

**問** 道の駅は断念とのことだが、議会としてはどうするのか。

**答** 道の駅については、平成28年度の当初予算における地方交付税の減額（約2億6,000万円の減額）の影響により、建設予定地の土地の取得や建設費用は捻出できないという大きな理由であった。財政の健全化を優先し、今の建設予定地での建設は断念するという判断であった。町長は、地方創生の拠点となる道の駅は必要であり、基本構想は、今年度中には策定したいということだ。また、道の駅建設に向けて今後も財源確保を目指すというような考えをもっている。また、道の駅の駐車場やトイレは、国土交通省が整備をするということであった。高原町は寄るところがなく、宮崎から霧島市に向かう大型バス等が休憩をとったり、

食事する場所がない。高原インターを利用する方が利用し、観光客に繋がるような道の駅が必要ではないかと思う。これまで調査した内容は、再度事業が動き出した時に再検討したい。

**問** 道の駅構想計画のコンサル料を1,500万円ぐらい払っているが、他にも人件費もかかっている。

**問** 道の駅・体育館等、期待していた事業が廃止になった。今後、事業を廃止して、高原町の何で活性化するのか。

**答** 道の駅が廃止ではなく、今、考えている予定地には建設しないということ。

**問** 議員としての考えはどのようなのか。

**答** 議案提案権は、首長にある。道の駅整備構想の費用は、議会で可決された。町の財政は、厳しい状況にある。

**問** 道の駅や総合体育館について、町民には具体的に説明がなされないまま、中

止するというのは町民無視ではないか。簡単に決定しすぎではないか。議員から町長に対して何も無いのか。高原町の10・15年後の構想を聞かせて欲しい。

**答** 道の駅に対しては、町民の中にいろんな意見がある。議会としては、地方交付税の減などでの理由で了解し、議会としては特別委員会の調査は休止とした。今後、再度構想がでてきた段階で、特別委員会として、調査を再開し、審議することとなる。

**問** 道の駅、体育館の建設について、町の説明に不透明さがある。土地の公示価格は周知のもの。役場内の担当課にて対応可能なものについて、委託料をかけて調査すべきであったのか。

断念により予算が無駄になつたように思うが、なぜそうなつたのか。病院の赤字については早い段階で分かっていたことであり、10億円程かかる議案を臨時会で

出すのは議会・町民軽視はないか。議会としても、しっかりしてほしい。

**問** 地権者の配慮ということであったが、その辺のことをもう少し聞きたい。

**答** 補助事業となると、公示価格を基本に、専門家に委託して、単価を出す必要がある、構想を策定して国・県に示す必要があつたことから、基本構想の予算を審議した。当初、全員協議会にて、道の駅建設に関する話はあつた。建物については、現在の建物利用の有無についても意見が出た。

また、撤去費用の鑑定もすべきとの判断はあつた。土地取得経費として、建物の評価も併せてでてきたのはおかしいという議論も出た。11月に新聞に、道の駅建設が報道され、3月には断念となつた。3月には、町長を全員協議会に呼び、財政的な見通しの甘さ等を厳しく指摘したところだつた。

**問** 道の駅の視察について、

道の駅は延期になつても、報告はしてほしい。

**答** 議会広報等を通じての報告は可能だが、別個に報告会は考えていない。

### ◎町の予算及び財政について

**問** 今後さらに地方交付税の減となることが想定されるがどう考えるか。5,000人の人口になつた時に、どのくらいの額になると思ふか。

**答** 交付税の算定をするにあつては、人口が最も大きく影響する。ただし、その時における算定方法があるため、いくらになるかを答えることは難しい。また、高原町は、財政等も含め、自治行政を維持しうる人口として、人口ビジョンにより5,000人を目指している。

**問** 当初予算の民生費が全体の30%を占めているが、中身について教えて下さい。

**答** 大きく言えば、老人福祉費・児童福祉費・障害者福祉費・保健衛生費などである。この自治体も民生費・福祉費として子ども対策・高齢者対策・一般の方の対策などが伸びている。国の助成等もあるが、町の歳入もある。

**問** 義務的経費が25億円ある。人口も減少しており、自治体の人口規模で適正な職員数や議員数は決まってくると思う。退職者と新規採用のバランスをとっているのか。パソコンなどが普及し、人間はいらなくなる。人件費等はどうなっているのか。議会はどう考えているのか。

**問** 人口減少に伴い、交付税も減少し、段階的に職員は減ってくると思う。採用などについて議会は意見できないが、人口が減れば、おのずと業務量も減ってくる。

**問** 地方交付税は、財政的に貧しい地方公共団体を助

けるべきだ。財政の配分について見直しをするべきではないか。

**答** 国の方では総合戦略ビジョンによる交付要件を設けた。その事業の評価は国が行う。今の流れでは、自治体間の開きが生じる。町内一丸となり、まちづくりをすることが今後の課題になる。

病院経営の悪化等により、町の財政は厳しいが、62事業の町民の皆さんのための予算は、まずは優先しようという事で可決した。福祉的配慮が十分になされていると考える。今後の活性化については、提案権のある首長から提案されたものを町民の方の意見等聞きながら、審議にあたっていく。

**問** 自動車税の増税について所得の高い方は新車を買って、減税になるが、所得の低い方は、お金がなくて新車を買えないのに、増税になるのはおかしい。(ご意見)

**問** 昨年出生した人数は何人ぐらいか。出生に対して補助等はないのか。

**答** 町独自で子育て支援に力を入れ始めている。保育料等についても小林・えびのに比べても手厚く対応している。(昨年度出生43名)



### ◎防災対策について

**問** 役場やほほえみ館の耐震性能はどのくらいか。

**答** ほほえみ館は、震度7までの地震に耐える建物と

聞いている。阪神淡路大震災後に作った建物であり、鉄筋が入っているので大丈夫といえる。しかし、役場庁舎は、1階から3階は耐震不足で補強が必要である。

4階は大丈夫だということであった。耐震化を図っても、20年程度しかもたず、耐震化工事をするのか、建て替えとなるのかは、今、検討中である。工事費用等も比較検討を行っている。今後、財政調整基金を積み立てて、見込みがたち次第建て直すという話であった。

**問** 新聞記事で全国の活断層の記事があったが。

**答** 幸い高円町の下には活断層はなかった。南海トラフの断層がずれているとの記事もあった。

**問** 地方創生の座談会で、2月の時点で4月からの事業を協議するのは遅いと発言した。12月前にはやるべき。公共施設の整備についてこれまで費用対効果の検討がされていなかったと聞

くが。

**答** 現存の公共施設も、耐震性の面から、立て直しや修理が必要となる。今後、人口減を予測した中で、慎重に、最小で最大の効果をあげるといふ基本的な考えが大事になり、多角的な考え方の中で整理する必要があるだろう。これは、当局にも心構えがあると思っている。また、議会でいろいろな提言をしていく。

**問** 町内の公共施設には、耐震化できている施設がないのではないか。

**答** 災害対策本部となる役場庁舎が使えなくなると危惧している。近頃災害が多いので、災害対策本部が必要ではないか。役場庁舎は耐震基準を満たしていない。総合体育館については財政的な理由で検討は先送りになった。災害対策本部を設けるなら、ほほえみ館になると考える。耐震性のある庁舎の設置も今後検討することになる。

**問** 役場の耐震化を先にやらないとだめだ。役場敷地は埋め立て地である。体育館予定地も盛り土のところではだめ。

### ◎人口増加対策について



**問** 平成27年度予算化された荒迫分譲地はどうなっているか。造成したが、草が生えてきている。造成・分譲について、町当局の計画単価等の方向性はどのようになっているのか。

**答** 町有地の造成、約5,000平米くらい。平成27年度予算にて造成が行われ、まだ終了していない状況。見直しについては、区画割り、分譲の価格等、今のところ検討されていません。また、町民の皆様へどういった形で何月頃までに提供できるかということについては、はっきりしていません。

**問** 分譲地については、近

くを通る方々から、まだだろるかという声が出ています。今のままにしておく、現段階で、草が生えてきており、草刈りをしなければいけない。早めに価格等を町民の方に提示していただきたい。そして、定住促進に努めていくべき。

**答** 造成がすでに進められている。家を建てたいと土地を求めたい等の考えがあり、早めに譲渡できる体制を整えば、できるだけ早い時期に、用地価格等含めた譲渡の考え方を町民の方々に伝えることを急ぐ必要があると思う。要望として、当局のほうに申し上げておきたい。

**問** 荒迫の分譲地近くで火災があった。消防車が来て、消火栓から車3台を繋いで、やっと消火できた。せっかく造成し、売ろうとしていたので、消火栓についても考えた上で造成したほうが良かったのではないかと思う。

**答** 高原中学校から、山本組に抜け、希望の店の前を通って、松下電機までの道路改良が計画されているところである。平成5年頃始まり、用地買収に入っているが、用地買収がうまくいかず、ストップしている。すでに年数がかかり、中学校も完成した。このようなことから、道路改良についても、検討していかなくてはならない。

**問** 人口減少はなかなか止められない。どのように人口を増やすかを検討しているのか。

**答** 定住化対策等で住宅改修に補助金を出すなど予算がついている。婚活イベント等も実施しているが、成婚者が出ていない状況である。

**問** 役場職員が小林市に家を建てている。職員も町内に住むようにした方がいい。何年度からは町内に住むとした方がいいのではないかと。若い人たちが住んでくれるといい。綾町は人口が増えている。そういった所を調査すべきではないのか。

**答** 人口減の対策として広原の町営住宅建設も計画されている。

**問** 高城町の図書館と高原町の図書室では大きな差がある。ふれあいの場として、図書室の充実を提案したが、財政面を理由に難しいということだった。都城は移動図書館も実施している。子どもを増やすためにも、図書館やふれあいの場等の活性化を要望したい。

**答** 要望として承る。

**問** 現在の町営住宅に空き家が多い理由は。

**答** 全体的に古いものが多い。霧島団地はほぼ100%入居している。古い住宅は入居率が低い。古い住宅

は家賃も安く、そういった住宅も需要があり、古いものを一挙に廃止することにはならない。

**問** 県道西麓小林線の広原十文字の交差点について、舗装打ち換えに伴って、危険ということ横断歩道を廃止している。対応を訪ねたところ、遠回りして押しボタン式の信号を使うように言われた。現実的に遠回りする人はいない。子どもの安全等も考えて今村商店まえに横断歩道をつくってはどうか。

以前信号機設置について署名を集めたが、交通量や資料不足をあげられた。住民感覚として危険だと考えるが、見解は。  
**答** 深刻な問題として受け止める。交通事故の80%は高齢者が犠牲になっているとの報告があった。交通安全協議会分会長会・町・県議にもお繋ぎしたい。道路事情もあるが、まずは横断歩道についてお伝えしたい。



# 目指せ!日本一!



## 高原スポーツ少年団



### 広原サッカースポーツ少年団



1979年発足、団歴37年。全日本フットサル大会出場2回、第3回全九州スポーツ少年団サッカー交流会で優勝と輝かしい実績を持つ。サッカーを通じての仲間づくりを目的とし、モットーは「明るく楽しく元氣よくそしてしっかりと」。そのうち、プロのリーグを出してみたいとか。練習は毎週火・水・金曜日、広原小学校グラウンドで。女子団員も歓迎。



### 高原野球スポーツ少年団



1973年発足、団歴44年。2015年には、阿波踊りカップ全国学童軟式野球大会に出場。また、今年6月に開催された第41回宮崎県若鷺旗争奪少年野球大会で準優勝し、8月の九州大会に出場する。目標は、野球を含むすべての面で県ナンバーワンになること。モットーは「凡事徹底」「夢への挑戦」。いつの日か、神宮球場で開催される全国大会に出場するのが夢である。



## あ と が き

◇さる7月6日、皇子原公園で水難事故があり、町民の方がなくなりました。日頃から、農業の傍ら、町を元気づけるために貢献されていた方であり、高原町は大変大きな力を失いました。昨年、議会だよりの農家民泊の特集記事で取材させていただきましたが、柔らかな、温かい人柄を感じました。大変残念に思うとともに、心からご冥福をお祈りします。二度とこういう事故が起きないように、心を引き締めて今後の防災対策等に取り組んでいかなければなりません。◇議会報告会に参加された皆さん、ありがとうございました。昨年と比べて参加者は減少しました。とても残念に思います。厳しい苦言とともに多くのご意見や提言がありました。意見交換の貴重な場として、さらに充実させていきたいと思えます。ご協力とご参加をよろしく願います。◇夏本番です。強烈な暑さは体にこたえます。35℃の予報に驚かなくなっています。何かおかしくはないですか。体調管理を心がけて、熱中症などにならないよう、また、体調を崩されないよう祈ります。

(益本筆)